

「波乱万丈の4年間だった」

新木さんが語る大連の暮らし

蒼穹

新聞局は8月5日(水)、夏休み特別号の企画として、終戦まで中国の「大連」で生活していた町内の新木正巳さんに話を伺った。



日本から見ると大連はどの辺になるのか確認して下さい

大連とは、満州国の端っこ関東州にある。日清戦争後の1898年、三国干渉で清国を救済した見返りとして、大連のある遼東半島先端部を租借する権利を得たロシアが「ダルニー」と名づけた。1904年に勃発した日露戦争は日本優位のまま終戦となり、戦後の1905年ポーツマス条約により遼東半島先端部の租借権はロシアから日本に移った。日本統治下では清朝の地名「大連湾」から「大連」が都市名として採用された。ロシア時代は、鉄道の建設が終わったばかりで

港は整備中であり、線路の港寄りの街路と一部の建築物ができた状態で、人口は4万人程だった。日本政府は、大連を貿易都市として発展させるため、関東都督府と南満州鉄道にインフラの設備を続行させ、港湾施設を拡張した。またロシアの作成した都市計画を踏襲して西洋風の建築物が立ち並び街路と市電を建設した。

1940年、大連の人口は60万人を超え、アジア有数の貿易港となった、日本人移住者は約20万人で、大連の政治家や公務員大半が日本人であったため、支配層と見られていた。これは満州の主要都市でも同じような状態であった。大連はもともと農業・漁業が主体の土地であった。今も農業では野菜や果物、などの栽培が盛んである。漁業は特に盛んで、昆布やウニなどの養殖がおこなわれ、日本・韓国への輸出が多い。(この項はWikipediaにある「大連」の説明を元に早坂が編集しました。)

発行者
上士幌高等学校
新聞局
編集長
渡邊このみ
第266号
令和2年9月8日

机もなかったが頑張った

実は私たちの大先輩

新木さんは本校の定時制普通科1期生である。大連から長崎県の佐世保に到着してから父がいる上士幌(当時村)に移住し、青山水材の事務に職を得て仕事をしながら高校に通った。戦後間もないので、ともに机が無く教師もほとんどが中学校の先生だった。校長の山花豊先生に

はとてもお世話になった事を覚えている。当時の友人が役場に勤めていて「あいつができたなら俺にもできるだろう」と思い役場の採用試験を受けて合格した。青木木材を辞めるのに時間が掛かったが、昭和27年に臨時職員になり、そこから色々な部署を経て、最後は町長、助役に次ぐ収入役で退職した。その後もすずらん壮施設長や社会福祉協議会事務局長を務め、平成15年に悠悠自適の生活になった。最後に生徒に向けて「勉強してください」とのことだ。(加藤 駿)



ありがとうございました。じゃがいも美味しかったです。

こしあんが嫌いになった

1942(昭和17)年12月、11歳のとき父親が働く大連に清水町から家族で移住した。大連は水道やガスは完備して生活に困ることはなかった。中学入試に受かり1年生はびっちり勉強をし

たが、2年生になると月曜以外は勤労働員で工場の検査係をしていた。日本人が居づらくなった。45年8月15日、玉音放送で敗戦を知ったとき、一緒に聞いていた中国人

戦後は食糧難に

大連での主食はサツマイモの粉。これを母親が饅頭にしてくれたが、あんこがある中国人の商店で長く待たされたため、こしあんが嫌いになった。大連でのことは「波乱万丈の4年間だったけれど良い所だった」と振り返っていた。(早坂 柚香)

箸休め

新木さんのお宅にお邪魔してお話を聞いた際、ペットボトルの飲み物を出してもらったので頂きながら聞いた▼さらに取材も終盤に差し掛ったところ、新木さんの奥さんが、ふかしたジャガイモとキュウリの漬物を出してください、取材の途中ではあったが頂いた▼ジャガイモは塩味が効いていて初めて食べたようなおいしさだった。そしてキュウリの漬物は山形先生が気に入っていたようで一人でもたくさん食べていた▼それはともかく山形先生は「新木さんと年の変わらない母も戦争経験者なので人ごとではないと感じた。今回の体験談を聞いたことで、社会科の教員としてもこれからの授業に生かしていこうと思った」とのことなので今後の授業に期待しよう▼久しぶりに部活に来てくれた副顧問の植松先生にも聞いた。「いまだに大連での同級生との繋がりがあることに対して驚いた。戦時中という厳しい時代にあった人達と今の平和な世界でも繋がっていることが素晴らしいと思つた」と取材中の感想を話してくれた。(木村 彩夏)

今できる一番良い演奏だった

吹奏楽部3年生最後の本番

8月21日(金)帯広市民文化ホールで北海道高等学校文化連盟十勝支部音楽発表大会が行われた。関係者以外は入れない中で3年生にとって最後の本番だったが、最優秀に次ぐ優秀賞を獲得した。

- 引退する3年生と顧問の先生に聞いた
- ① 今回の大会で例年よりも気をつけたこと
 - ② 無観客での演奏はどうだったか
 - ③ 後輩達へのメッセージ(3年生)・3年生へのメッセージ(先生)



青木望愛さん

① 3年生にとって最後の大会だったから後輩達との時間を大切に



最後まで手を抜かない

- ② 演奏で音ずれが目立っていたのと練習のときのほうがうまく弾けていた。だけど短い時間でよく出来たと思う。
- ③ 短い時間だったけど伝えたいことは伝えたと。誰かが欠けると完

成しないから吹部としての自覚をもって活動して欲しい。



佐々木愛奈さん

① 夏休み中に後輩達に伝えたいことを伝えること。

- ② いつもとあまり変わらなかった。お客さんがいなくても普段通りだった。
- ③ もう少し、自分の楽器を吹きたかった。周りを見て頑張ってたね。
- ① 楽器の水を抜くとき



長沼龍真さん

- ② 楽しいとは思えなかった。演奏はお客さんを楽しませるためだからいいと悲しい。
- ③ これから後輩を引っ

張っていく事になるけど、後輩に負担をかけすぎないようにね。あと辞めな



鈴木舞さん

① 自分はパートリーダーとして指示だしや後輩を育てることに集中した。

- ② 他校の楽器を使う事になってギリギリまで感覚が分からなくてずれてしまった。他校生がいたから普段とあまり変わらなかった。
- ③ 吹奏楽を始めて個人的には10年目だから離れるのは寂しい。不安になっても1人で抱え込まないでいろんな人と協力して



木村朱里さん

① 自分の知識や技術の後輩に伝えること。いつもよりも特別で最後だから楽しく後悔のないように演奏すること。

- ② 雰囲気はいつもとあまり変わらなかった。
- ③ 楽しむのが一番。ゆるい部活だけどコンクールとかのメリハリをつけて欲しい。あと、演奏で絶対に手を抜かないで欲しい。

野村先生

- ① プリントとかを使って部員達とイメトレしたり、異常な取り組みだった。

私たちの就活

採用を目指して動き始めた3年生

就職イベント報告

8月4日(火)と12日(水)に就職に関する行事があり、どちらも3年生の就職希望者の多くが参加した。

4日に開催された「2020年合同企業説明会」(中小企業家同友会とかち支部主催)は私を含め就職希望者全員が参加し

た。賞とかはあまり重要ではなくて良い演奏したいと思ってる組んだ。

- ② いつもとあまり変わらなかった。今できる中で一番良い演奏だったと思う。
- ③ 早く進路決めなさい。どういう意味か分かるね。

井関先生

- ① 消毒と三密回避。ガイドラインに従うこと。
- ② 外部のお客さんはあまりいなかったけど関係者とか500人ぐらいはいたから淋しくはなかった。短い期間の中でよくやったと思う。
- ③ 今の部活の雰囲気を作ったのは3年生だし、この代りのやり方で引っ張ってくれたと思う。本当に良く頑張りました。(渡邊このみ)



コロナの影響でこんな会場に

の消毒、検温が行われていた。大学生、短大、専門学生もいたため人が多く、企業によっては3つ

ようこそ「ペッパー君」

夏休みが終わり、学校に来た皆さんはもうご存知だろうか。本校に「ペッパー君」がやってきた。すでに話しかけてみたり触ってみた人もいるだろう。

プログラミングを担当している白戸先生に聞く「あれはもともと上士幌町役場が数台借りているもので、上小にあった2台を渡邊校長先生が借りてきた」そうで「生徒玄関のものは自分が、もう1台は井関先生が担当



少し緊張ぎみなペッパー君

「まあいいんじゃないかな。壊れないかが一番気になる」という。プログラムは少しずつ更新しているとのことなので、ペッパー君の新しい反応をぜひ楽しみにしてほしい。(高橋 ゆい)

以上の椅子が置いてある所もあった。

一方、同じ主催で12日に開催された「社会人になるための就職セミナー」には2名が参加した。内容は①自己分析②企業が求める人材像や社会人としての基本マナーを学ぶ③会社の社長さんなどによる本番と同じ内容の面接指導、などで、全カリキュラム終了後はレポートを書き、終了証をもらったそうだ。

田中先生は進路意識が高まった3年生に向けて「やりたいこと、できることのできる場所を見つけてほしい」と今後の進路実現を応援してくれた。(木村 彩夏)